

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日: 2023年 2月 20日

事業所名: Athlon デイサービスカケル

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用定員並に応じたスペースは確保できているが、運動をする上では少し狭い。運動する人数を分けて行うように工夫をしている。	はい59.5% いいえ2.7% どちらともいえない32.4% わからない5.4%	6割ほどの保護者の方が「はい」と答えているので、満足されていると感じた。ただ「わからない」「どちらともいえない」と答えている方も4割程いることから、今後は保護者の方にもっと事業所に来所していただき、7以外の様子を見ていただく機会を増やしていきたいと考える。
	2 職員の適切な配置	資格を持った職員の配置はできている。人数も確保できている。	はい75.7% どちらともいえない13.5% わからない10.8%	「はい」と答えている方が多いので、満足いただけていると感じた。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	自分たちで片付けができるように見本の写真などを張りわかりやすいようにしている。また、棚の中など何が入っているかわからないので、その部分は改善が必要。	はい78.4% どちらともいえない16.2% わからない5.4%	「はい」と答えている方が多いので、満足いただけていると感じた。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	各箇所への清掃は行き届いている。壁紙がはがれている箇所がいくつかあるので、その都度修復作業を行う。	はい67.6% どちらともいえない27% わからない5.4%	「はい」と答えている方が多いが、「どちらともいえない」と答えている方が3割ほどいる。運動をするには部屋が少し狭いと思っている保護者の方もいらっしゃるので、この空間で工夫して使用していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎月事業所でのミーティングや会社での会議を行い、一か月の反省と課題点を上げている。また、毎日の終業時には子どもの振り返り、職員同士の振り返りを行っている。		今後振り返りを行い、明確な目標を掲げることさらに良い療育を提供していきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	毎月1回は療育事業部での研修を行っている。また、オンラインで行われている一般の研修も積極的に受けている。		いろいろな人の目で療育を見てもらい、現場が気づいていないことを意見としていた
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	毎月一回は療育事業部での研修を行っている。また、オンラインで行われている一般の研修も積極的に受けている。		更なる質の向上に向けて外部が行っている研修に積極的に参加していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	半年に1回行っている面談では私たちの考える分析や課題点を伝えながら保護者の方のニーズを聞いている。その後支援計画を作成している。		ほとんどの方が「はい」と答えていることから支援計画については満足されているように感じた。今後も面談時に保護者様の困りごとや課題点を聞き、ニーズに合わせた個別支援計画が作成できるようにしていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	基本は集団行動中の支援方法を作成し、その中でも個別で支援が必要な部分の支援方法も適宜作成している。	はい94.6% どちらともいえない5.4%	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	誰が見てもわかるように支援内容は具体的に記載するようにしている。		
適切な支援の提供 t (続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	毎日の支援で計画を意識して支援ができていない部分もある。事前の打ち合わせ時に計画をスタッフ間で改めて確認する必要がある。	はい100%	保護者様からの反応は「はい」が100%で良い結果は出ているが、もっと計画を把握したうえでの支援を行っていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	担当を決めて活動のプログラムを考えている。今後も継続していろいろな職員の考えを反映させていきたい。		
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日と休日の活動内容を変えることで、いろいろな視点からの支援ができるように工夫している。	はい100%	保護者の方からも100%の「はい」という答えをいただいているため、満足していただいていると考える。また「いろいろな経験をさせていただけて助かっている。」などのお声もいただくので、今後も考えて継続させていきたい。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	年間で活動内容を計画し、固定しないように工夫している。また、いろいろなスタッフがメインで指導することで、固定化しないように工夫している。		
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前には役割分担の確認を行っている。今後はさらに1人1人についての支援方法や目標なども確認していく必要がある。		
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後は毎日フィードバックを行っている。1人1人の子供の動きや支援方法についてと全体の支援の方法や活動内容について話し合っている。		
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	フィードバックの内容や活動内容は記録している。今後はその記録を見直し、前回の改善点を踏まえたうえでの支援ができるようにしていく。		
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回モニタリングを行っている。計画もモニタリングの内容を経て作成している。		
	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	サービス担当者会議は行っているが、その子どもに関わったスタッフ全員が参加することが難しい。日程の調整を見直し、関わりのあるスタッフを多く集めて会議ができるように工夫する。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	なし。		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	なし。		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	相談支援事業所を利用されている方は定期的に支援内容の共有は行っている。その他のお子様に対しての支援内容の共有はほとんどできていない。今後はご家族の方を通じて学校との連携をとっていきたい。		
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	学校卒業後に他の障害福祉サービスを利用するといった話を聞いていないため、支援内容等の共有を行った実績はない。		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関が行っているZOOMでの研修は積極的に受講している。発達障害者支援センターとの連携は取れていない。		
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	児童クラブや児童館などとの交流はほとんどない。ただし、外出支援支援ではいろいろな施設に外向き、他の子どもと接する機会はある。	はい32.4% いいえ8.1% どちらともいえない18.9% わからない40.5%	「わからない」が半数を占めている。そのような交流があまりないことと、活動をしていても発信していないことで、保護者様に認知されていないと考える。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所のイベントに地域の方を招くようなことはできていない。地域の祭りでダンスを発表したり、地域の施設に外出に出向くようなことはある。今後はさらに地域を巻き込んだイベントを開催していきたい。		
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に利用者負担や支援内容などの説明を行っている。今後は詳しい説明会を行い、活動内容や支援内容を理解していただいた上で契約を考えてもらうようにする。	はい91.9% どちらともいえない5.4% わからない2.7%	契約時や面談時にお話をしているので、ほとんどの方が「はい」と答えてくださっている。まだ、「はい」と答えていない方もいらっしゃるため、今後更なる強化が必要である。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援計画を提示しながら説明を行っている。支援内容に関しても詳しく説明を行っている。	はい97.3% どちらともいえない2.7%	ほとんどの方が「はい」と答えてくれているので、説明が伝わっていると感じている。「どちらともいえない」の答えもあるため、一方通行にならないように相互で相談ができるように工夫する。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	来所時に気づいた点や、家庭でも実施してほしい内容は伝えることがある。しかし、明確なペアレント・トレーニングの支援を実施することはできていない。	はい45.9% いいえ13.5% どちらともいえない21.6% わからない18.9%	「はい」と答えている方が少ない。時々家庭での取り組みを提案する程度で、家庭と事業所が連携できていない。今後は事業所で行ったことと連携を「はい」と答えてくれる。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	毎回の送迎時に課題や良い点を伝え共有している。今後はさらに事業所の様子を伝えながら保護者様からの意見も聞き、共通の認識で支援できるようにしていきたい。	はい97.3% どちらともいえない2.7%	送迎時や面談時にお伝えしている内容が伝わっているのだからと考える。さらに内容が伝わりやすくなるように工夫していきたい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	子育てのご相談をいただいた際には事業所での子どもの様子も踏まえてお答えしている。まだ、多くの相談を受けているわけではないので、今後はさらに必要な助言ができるように研修などを受けていきたい。	はい94.6% どちらともいえない2.7% わからない2.7%	特に子育ての件で相談を受けることがほとんどない。今後はご家庭の様子も伺いながら対応できるようにしていきたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	今年度は保護者の方々がお話できる機会はほとんどなかった。来年度は保護者の方の集いや親子でのイベントなどを考えている。	はい16.2% いいえ29.7% どちらともいえない21.6% わからない32.4%	7割ほどが「はい」と答えている。苦情まではいかないが、不安に感じられている保護者の方も少数いらっしゃるため、まずは苦情になるまでに保護者様のお声に耳を傾け、迅速に対応していくことが大事になってくる。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応方法は、アニュアル化されている。全スタッフが苦情に対応できるように研修などを行う必要がある。	はい75.7% どちらともいえない10.8% わからない13.5%	
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	1人1人に合った意思の疎通の方法や情報伝達を行っている。例えば、言葉がまだ不十分な子に視覚的な情報で伝えるなど工夫している。		
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	イベントや外出の内容などの案内は毎月案内を行っている。活動後の発信はほとんどないので、来年度より積極的にしていく。	はい94.6% どちらともいえない2.7% わからない2.7%	「はい」と答えてくださっている方が多い。個人の活動内容の報告は毎回しっかりと行っている。全体に対しての発信がまだ少ないので、我が子以外が参加している様子や全体での動きなども把握してもらうように工夫する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いには十分な配慮を行っている。職員が入れ替わるタイミングでの引継ぎがうまくいかなかったことが少なかったため、引継ぎを徹底していく必要がある。	はい86.5% どちらともいえない5.4% わからない8.1%	ほとんどの方が「はい」と答えてくださっているが、不安に感じられている保護者の方も少数いらっしゃるため、今後不安のないようにしていく為に報連相を徹底していく。
1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルの策定はできているが、保護者の方への周知はできていない。職員への周知も入れ替わるタイミングではうまくできていないので、徹底していく。	はい56.8% いいえ5.4% どちらともいえない16.2% わからない21.6%	保護者の方への周知ができていないため、「はい」と答えている方が少ない。今後は定期的に保護者の方へ周知する機会を設けていく。	
2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	毎年9月と1月に防災学習と避難訓練を実施している。また、避難場所である公園は定期的に利用し、子ども達が覚えられるようなクイズも行っている。	はい51.4% どちらともいえない10.8% わからない37.8%	定期的な防災学習と避難訓練を行っているが、保護者の方への発信ができていないため「わからない」の答えが多くなっている。今後は実施後に発信をする。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待研修は会社内での研修と外部の研修を受講している。今後はアルバイトへの研修も重点的に行っていく必要がある。		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束に関しては研修を受け、組織的な決定は行っている。保護者の方への説明は十分ではないため、今後は徹底する。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーのある子どもに対しては保護者の方からの指示で対応を行っている。医師からの指示書などはいただいているため、今後は書面でも確認をする。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットは毎日のフィードバックの中で話を行い、事例集は作成している。今後の対策なども合わせて話し合いを行っている。今後は少しでも危険だと感じたことを上げ、安全管理を行っていく。		